

平成 23 年度

技術部業務報告書



大分工業高等専門学校 技術部

巻頭言

校長 大城 桂作

高専教育の特長は座学で学んだ内容を実験、演習等を通して体得させるところにあります。1年次から高学年に渡って多くの実験、実習、演習が体系的に組込まれており、その内容の充実が学生の成長にとって極めて重要です。平成23年度に学科名称変更した都市・環境工学科や24年度に改称する情報工学科は勿論、各学科とも教育内容と併せて実験・実習・演習内容の改善に努めていく必要があります。技術部は設計創造室、解析構造室、情報基盤室、計測処理室の4室で構成されており、各分野の技術教育力を有する技術職員が各学科の教員グループと協力して実習内容の改善に取り組んでいます。とくに高専では、学校の教育力に技術職員の寄与するところが大きく、その力量を高めていくことが極めて大切です。教育実践の中で自らを磨くと共に、技術職員同士や教員との協働による研究・連携活動への参画や各種の研修を通して自己を高めていかなければなりません。本校技術部では、このような認識のもとに、平成23年度も教育・研究・連携及び学校運営に関わる諸活動を行ってきました。本書はその概要を纏めたものです。

例年と同様に、充実した活動を行ってきましたが、記憶に残るものの1つにテオ・ヤンセン氏との交流があります。技術部はロボット部の学生達と協力して大分市との連携事業並びに大学コンソーシアム事業の一つとして町中でのロボット作製・展示を行っています。本年度は大分市美術館でテオ・ヤンセン展が開催され、10万人以上が訪れ、入場者記録を更新しましたが、主催者の要請を受けて本校は大分市内の高校4校とともにビーチアニマル風のロボットを作製し、展示しました。ロボットの作製状況の視察のため、テオ・ヤンセン氏が来校し、指導に当たっている技術職員と意見交換しました。丁度、高専体育大会激励会で集合していた学生達に、自身の体験をもとに率直な励ましのスピーチを頂くことができました。

また、技術部が主体的に取り組んだ文部科学省の「GP事業」や「社会人学び直し事業」を継承するものとして、「足踏みミシンボランティア活動」をフィリピンのマニラで実施するとともに、とよのまなびコンソーシアム大分としての連携講座や臼杵CAD講座を開催し、大型プロジェクトを通して得た経験・技術を活用しました。コンクリート受託試験事業も平成22年度の高性能試験機新設もあって順調に進んでおり、コンクリート技士の資格を取得した技術職員もいます。これらの社会との連携活動経験を活かして、専門技術や教育に関わる研究を行っていくと良いと思います。

教員の皆様には、技術職員にも各種の国家資格取得、科研費（奨励研究）獲得、研究発表が望まれていることをご理解いただき、ご支援・ご助言くださるようお願いいたします。

技術部長あいさつ

技術部長 一宮 一夫

技術部を構成する技術職員は13名で、藤本技術長、吉岩技術次長のもと、4つの分室を設けており、それぞれが有機的に業務を担当しています。業務は大きく分けて、「学生実験等での教育指導ならびに教員研究の補助」と「学生の課外活動指導や地域貢献」があります。

前者につきましては、実験実習を重視した実践型教育を特徴とする高専教育において、非常に重要な役割を担っています。理論偏重になりがちな高等教育において、理論と実践をバランスよく学ぶことができるカリキュラムは、高専教育の生命線であり、実社会から高い評価を得ている重要なポイントであることは言うまでもありません。技術職員の方々には、これからも誇りを持って業務にあたっていただきたいと思います。

一方、後者の業務は放課後や休日に行われることもあり、大小の負担を感じることもあるでしょう。しかし、技術職員の皆さまのご理解とご協力により、他高専に負けることのない成果をあげています。特に平成19年度から平成21年度までの3年間にわたった文部科学省現代GP事業の「異文化体験型国際技術者総合キャリア教育」での「足踏みミシンの修理・贈呈事業」、社会人の学び直し事業の「IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」での「2次元CADや3次元CADを始めとした再就職を求める社会人に対する学修プログラムの実施」におきましては、技術職員の職務能力の高さと協調性が遺憾なく発揮されました。文部科学省の支援は終了しましたが、現在も「足踏みミシンの修理・贈呈事業」の取り組みは、東南アジアの開発途上国に対して継続して実施しています。また、社会人の学び直し事業で培ったノウハウを元に一般市民を対象とするIT講座等を実施し、地域の発展に貢献しています。

「コンクリート受託試験」にも多くの技術職員が関与しており、地域ニーズへの対応とともに、それによる収益金は技術職員の各種の講習会参加費や教員研究の補助等に使われ、教職員の能力向上につながっています。他にも「校内の情報インフラ整備」、「ロボコン指導」、「出前科学実験講座」を始めとした数多くの重要な業務に関わっており、学校運営に欠かすことができません。

技術職員の平素の仕事内容は、校内での勤務場所が分散していることもあり十分には知られていないように思います。各担当者からの実績報告を取りまとめた本報告が、教員、事務職員、技術職員相互の理解を深めるものであり、より良い大分高専づくりにつながることを願ってやみません。

目次

巻頭言
技術部長あいさつ

校長 大城 桂作
技術部長 一宮 一夫

1. 技術部組織と運営	1
組織	
専門分野および担当一覧	
2. 室業務	3
設計創造室	
解析構造室	
情報基盤室	
計測処理室	
3. 技術部関連業務	6
ロボットコンテスト支援	
テオ・ヤンセン展学生参加企画	
電気工事士実技講習	
AutoCAD 講座	
4. 地域連携交流センター関連業務	8
コンクリート受託試験	
豊の都市まなび直し講座	
公開講座「簡単ロボット手作り講座」	
公開講座「アイデア対決！！ブリッジコンテスト」	
公開講座「ラジオを作ろう！」	
夏休み子どもサイエンス 2011	
科学と遊ぼう！in 坂ノ市中学校	
第6回おおいた協働ものづくり展	
大分市産業活性化プラザ中小企業支援講座	
青少年のための科学の祭典大分大会 2011 in 杵築	
科学と遊ぼう！in 臼杵中央公民館	
科学と遊ぼう！in エイトピア大野	
5. 依頼業務	14
6. 大型プロジェクト後の取組	15
足踏みミシンボランティア活動	
とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座 パソコン講座「パワーポイント講座」	
7. 研修・出張報告	17
日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会	
コンクリート技士免許更新講演会	
九州沖縄地区国立高等専門学校技術職員研修（機械系）	
第9回全国高専テクノフォーラム	
平成23年度国立高等専門学校機構IT担当研修会	
平成23年度高専サイエンス支援ネットin九州沖縄 科学技術教育支援・研修会	
コンクリート技士試験受験	

平成 23 年度国立高等専門学校機構ネットワーク管理者研修会
次期校内 LAN 共同調達仕様策定委員会
九州地区総合技術研究会（九州地区大学・高専技術職員代表者連絡会議）
第 3 回高専技術教育発表会 in 木更津
第 7 回情報技術研究会

8. 資料 **23**

大分工業高等専門学校技術部規程
大分工業高等専門学校技術部運用内規
技術部運営委員会議事概要
技術職員が取得している資格・免許・国家試験合格者など
技術部業務報告書作成にあたっての取り決め事項

1. 技術部組織と運営

◆組織

前技術部長である機械工学科の福永教授が定年退職され、今年度から、都市環境工学科の一宮教授を技術部長に迎えた。

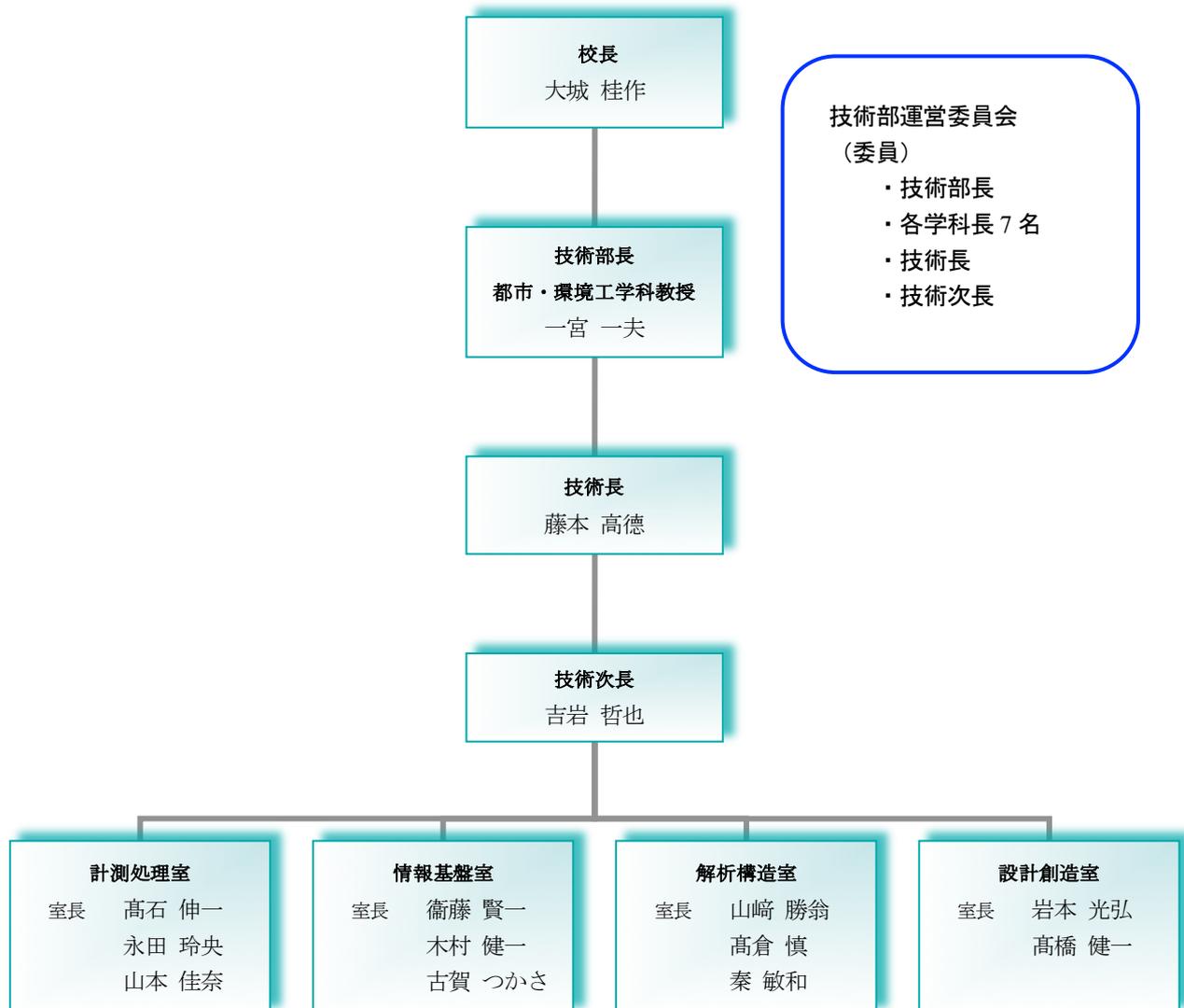


図1 技術部組織図

◆専門分野および担当一覧

表 1 技術部職員と専門分野など

	名前	専門分野	関係 学科	学科業務以外で担当する業務, 各種委員, センター活動等
技術部長	一宮	コンクリート構造学, 環境材料学	C	地域連携交流センター長
技術長	藤本	電気電子回路 電気機器	E	E 科チームリーダー, 苦情相談員, 電気工事士受験指導責任者
技術次長	吉岩	水理, 港湾, 情報 設計工学	C	技術部運営費管理, 地域連携交流センター委員, コンクリート受託試験, C 科チームリーダー
設計創造室	○岩本	機械工作全般 CAD/CAM	M	M 科チームリーダー, ミシン活動, 機械工場管理, 地域連携交流センター委員
	高橋	機械工作 CAD/CAM	M	ロボット研究部顧問, 実習工場管理
解析構造室	○山崎	電気回路 機械工作 CAD/CAM	S	ロボコン支援委員, S 科チームリーダー, オープン キャンパス実行委員
	高倉	電子回路 電気機器	E	コンクリート受託試験, 電気工事士受験指導, 専攻科学生用 PC 管理, ロボコン支援
	秦	材料工学, 測量学 コンクリート工学	C	ロボコン支援委員, コンクリート試験場責任者
情報基盤室	○衛藤	情報技術関連	M,E, S,C	情報センター管理, 電子掲示板管理, 学校 HP 委員, 総合情報システム委員, 苦情処理相談員
	木村	情報技術 物理化学	M,E, S,C	情報センター管理, 化学部指導, 技術部運営費管理, LAN 管理, 総合情報システム委員, ミシン活動
	古賀	機械工作 CAD/CAM	M	実習工場管理, ミシン活動, ロボコン支援, コンク リート受託試験
計測処理室	○高石	電気電子回路	S	情報センター管理, LAN 管理
	永田	情報工学	S	コンクリート受託試験
	山本	衛生工学, 測量学 土質力学	C	コンクリート受託試験

○ : 室長, M : 機械工学科, E : 電気電子工学科, S : 制御情報工学科, C : 都市・環境工学科

2. 室業務

◆設計創造室

設計創造室長 岩本 光弘

運営業務

設計創造室は、機械工場の運営に携わっており、「機械工場設備・器具使用願」を提出させ管理している。また、使用者が安全に使えるように、工作機械の維持・管理にも勤めている。他に、ロボット研究部、足踏みミシン修理ボランティア活動にも携わっている。

業務内容としては、機械工学科の工学実験および機械実習を担当しており、機械加工の基礎から NC 加工，製図から 3 次元 CAD，高学年では専門性の高い工学実験まで幅広く対応している。

ロボコン支援では、高橋技術職員が学内的な顧問として九州大会へ顧問教員とともに部員の引率を行なった。足踏みミシン修理活動では岩本・古賀技術職員が足踏みミシンボランティア学生に技術指導を行い，ミシンボランティア事業では、フィリピンのマニラに足踏みミシン 40 台を贈呈し，現地で足踏みミシンの修理指導を学生と行った。

業務の延長として，3 次元 CAD 利用者技術試験の認定校として高橋技術職員が窓口となった。

今年度の工学実験・実習は以下のとおりである。

1. 卒業研究・部活など

表 1 に学科別使用目的，図 1 に学科別利用状況，図 2 に使用目的別利用状況を示す。

表 1 学科別使用目的

学科名	使用目的	件数	合計
機械工学科	卒業研究	49	276
電気電子工学科	卒業研究	0	
制御情報工学科	卒業研究	2	
都市システム工学科	卒業研究	8	
専攻科	特別研究	24	
部活	ロボット研究部	168	
教職員		25	

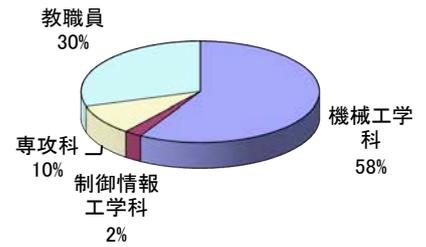


図 1 学科別利用状況

2. 工作機械別利用状況

表 2，図 3 に工作機械別利用状況を示す。

表 2 工作機械別利用状況

工作機械名	件数
旋盤	235
立フライス盤	197
ボール盤	195
帯ノコ	192
CNC 工作機械	168
その他	11

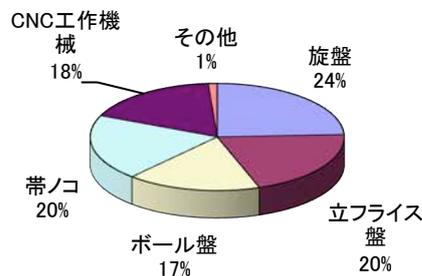


図 3 工作機械別利用状況

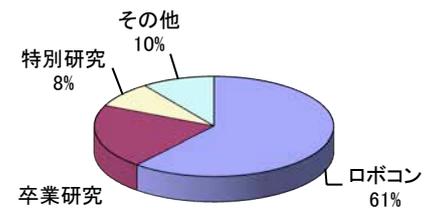


図 2 使用目的別利用状況

◆解析構造室

解析構造室長 山崎 勝翁

平成 23 年度は、例年どおりの業務を行った。数年実施してきたコンクリート受託試験では、問題点が徐々に明確となってきた。実験実習との重複時の対策、受付や書類整理などの事務的処理、コンクリート試験担当者の確保などである。現状を把握し、本来の業務に支障のない範囲で行えるよう改善し、効率的に運用する必要がある。



写真1 コンクリート試験場



写真2 コンクリート圧縮試験の様子

◆情報基盤室

情報基盤室長 衛藤 賢一

校内 LAN の維持管理、情報演習室管理などの他に、学内ユーザのパソコントラブルに対する対応、ホームページ更新作業を行っている。

平成 23 年度末には図書館 2 階の教育用電子計算機システム（情報演習用パソコンとサーバ機等）の更新が予定されているので更新機器の入札仕様書策定を行った。また次期教育用電子計算機システムには学生用メールサーバを設置しないため、外部のメールサービス（Google Apps）を利用することとした。

次期校内 LAN は九州の 6 キャンパス（有明高専、大分高専、鹿児島高専、熊本高専熊本 C・八代 C、佐世保高専）による共同調達となったため（平成 25 年 3 月導入予定）、本共同調達の仕様策定委員会に本校から鶴沢センター長と衛藤が出席しネットワーク機器の入札仕様書策定を行っている。

平成 23 年度末には認証基盤システムが導入される予定である。

総合情報センター支援業務報告

1. ユーザアカウント登録

新 1 年生（本科，専攻科），編入学生，新留学生，新任教職員分の登録を行った。

2. 専攻科生の勤務管理

時間外（16：45 から 19：45）の演習室を管理する専攻科生の勤務管理を行った。

3. 学生用メール Google Apps の導入・利用方法のマニュアル作成

LAN 維持運用業務

1. 定常業務

・ユーザ管理

教職員のユーザアカウントの登録・抹消を行った。

・ホスト管理

サーバ・ネットワークプリンタなどで使う固定 IP アドレスを発行した。

・フィルタ設定

ウェブサイトへのアクセス許可リストの追加を行った。

2. 障害対応

・LAN ケーブルのループによるネットワーク不調

- ・壊れたメールファイルによるメール受信不調
3. 今後の予定
次期校内 LAN 更新に備えネットワーク設計を計画している.

◆計測処理室

計測処理室長 高石 伸一

計測処理室では、本年度から技術部のホームページの更新を室業務として木村技術職員から引き継ぎ、現在大幅な内容の刷新を検討している。また、「大分地域大学等連携講座」の一環として昨年に引き続き永田技術専門職員を中心にパワーポイント講座を行った。他の室の業務支援として、高石は情報基盤室の LAN 管理業務を、永田技術専門職員と山本技術職員が解析構造室のコンクリート受託試験を支援している。



写真1 ホームページ製作の打ち合わせ



写真2 連携講座の様子

3. 技術部関連業務

◆ロボットコンテスト支援

設計創造室 高橋 健一

期 間：平成 23 年 4 月 1 日～10 月 9 日

対 象：ロボット研究部

参加人数：20 名

内 容：平成 23 年度の高専ロボコンテーマは「ロボ・ボウル」である。ロボットが人にボールをパスするまでのタイムを競う。今年度は設計用 PC の貸出（衛藤室長）、全体の製作指導、学生引率（高橋）を行っている。

表 1 本年度の主なスケジュール

年月日	内容	備考
H23/4/26	ロボコン 2011 ルール発表	ロボコン HP にて発表
5/31	アイデアプレゼン	専攻科棟 4F アカデミックホール
9/2	第 1 回校内ロボットお披露目	共同プロジェクト研究スペース
9/30	第 2 回校内ロボットお披露目	共同プロジェクト研究スペース
10/9	九州沖縄地区予選	福岡県 九州共立大学福原記念館

地区大会結果

大分高専 A チーム

Quick Baster

初戦敗退



写真 1 A チームロボット

大分高専 B チーム

Typhoon

初戦敗退



写真 2 B チームロボット

◆テオ・ヤンセン展学生参加企画

設計創造室 高橋 健一

期 間：平成 23 年 4 月 1 日～9 月 30 日

対 象：大分市内の高校、高専、短大

参加人数：100 名

内 容：平成 23 年度に大分市美術館においてテオ・ヤンセン展が開催された。生徒・学生参加企画に参加しビーチアニマルを製作した。製作はロボット研究部が 3 カ月かけて行い、レバー操縦可能なアルミ製ビーチアニマルを製作した。



写真 1 大分市イベントでの展示風



写真 2 大分市イベントでの展示風

◆電気工事士実技講習

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成 23 年 7 月 14 日～7 月 22 日
平日：16：00～18：00 休日：9：00～17：00

対 象：電気電子工学科学生

参加人数：3E, 4E 合計 9 名 (9 名) ※ () 内は合格者

講 師：藤本 高德, 高倉 慎

講座内容：第二種電気工事士，筆記試験合格者で電気電子工学科の学生を対象に実技試験対策講座を行った。

◆AutoCAD 講座

情報基盤室 古賀 つかさ

期 間：平成 23 年 9 月 21 日～9 月 28 日

場 所：株式会社臼杵鋼板工業所

対 象：同工業所の社員

参加人数：6 名

講 師：岩本 光弘, 古賀 つかさ

報告内容：現在，株式会社臼杵鋼板工業所では，通常の業務で JW_CAD 他数種類の CAD ソフトを使用している。しかし，AutoCAD を使える人材を多く育てていきたいとの内容であったため，「AutoCAD2008」を使用し，下記の日程で講座を進めた。

表 1.日程表

月日	曜	時間		内容
9 月 21 日	水	17:30～20:00	1,2,3 章	AutoCAD の役割，操作，作図コマンド
22 日	木	17:30～20:00	4 章	AutoCAD の修正コマンド
26 日	月	17:30～20:00	5 章	作図演習
27 日	火	17:30～20:00	6,7,8 章	レイア，文字，寸法について
28 日	水	17:30～20:00	まとめ	練習問題，JIS 規格(製図)
29 日	木	17:30～20:00	まとめ	練習問題，JIS 規格(製図)



写真 1 講座風景 1



写真 2 講座風景 2

4. 地域連携交流センター関連業務

◆コンクリート受託試験

コンクリート試験場責任者 解析構造室 秦 敏和

地域連携交流センターの事業一環として、コンクリート受託試験を実施(平成19年7月開始)している。コンクリート試験場(都市・環境工学科材料工学実験室)の受注高は、平成19年度786,300円、平成20年度1,861,400円、平成21年度2,542,000円、平成22年度2,905,400円、平成23年度当初予算3,000,000円実績約3,838,200円で、開業以来順調に業績を伸ばしている。

試験場職員は、技術部技術職員6名体制で実験実習指導・通常業務と同様にコンクリート試験は、午前中を基本に授業が無い技術員が輪番制で実施している。

課題は、試験場近郊の生コン工場との契約締結(現在大分市・別府市・由布市管内には、大分県土木建築部及び農林水産部が発注する工事の品質管理を行う事ができる試験場は、大分高専地域連携交流センターコンクリート試験場を含む2箇所。)及び試験場専任職員を配置し、常時コンクリート受託試験ができる体制作り(現在は、授業が無い時だけ実施している)とともに地域に貢献できる試験場を目指している。

現在、契約業者(試験料後納振込)が昨年度よりさらに1社増えて5社(=生コン製造業)、契約外業者が約5社(建設業)と飛び込みの業者からコンクリート受託試験の依頼が来ている。



写真1 500kN万能試験機(左側)と2000kN圧縮試験機(右側)の全景

詳細は、大分高専のホームページのトップにコンクリート受託試験があります。

http://techno.oita-ct.ac.jp/~forum/business_sangaku#shiken

◆豊の都市まなび直し講座

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成23年6月18日

対 象：科学に興味があり、科学ボランティア活動等に興味のある成人

参加人数：10名

講 師：電気電子工学科 高橋 徹，木本 智幸
技術部 藤本 高德，高倉 慎

講座内容：大分市との連携事業である。大分高専では『再発見，誰でもできる！かんたん科学実験教室！』という命題の基、6の異なる講座を開催し、その中で「ダイオードラジオをつくろう」に講師として参加した。

◆公開講座「簡単ロボット手作り講座」

解析構造室 山崎 勝翁

期 間：平成 23 年 7 月 25 日～26 日 9:00～15:00

対 象：小中学生

参加人数：4 名

講 師：制御情報工学科 青木 照子
技術部 山崎 勝翁

制御情報工学科 4 年生 5 名

講座内容：簡単なロボットを手作りすることで，もの作りの楽しさを体験してもらう。



写真 1 製作風景



写真 2 ロボットの試走

◆公開講座「アイデア対決！！ブリッジコンテスト」

技術次長 吉岩 哲也

期 間：平成 23 年 7 月 26 日～8 月 1 日 9:00～12:00

対 象：小中学生

参加人数：10 名（小学生 3 名・中学生 7 名）

講 師：都市・環境工学科 園田 敏矢
技術部 吉岩 哲也

講座内容：弱いバルサ材を使用して，「軽くて強い橋」を造るにはどうしたら良いかを考えて，創造力を伸ばすきっかけにする。



写真 1 完成品と記念撮影

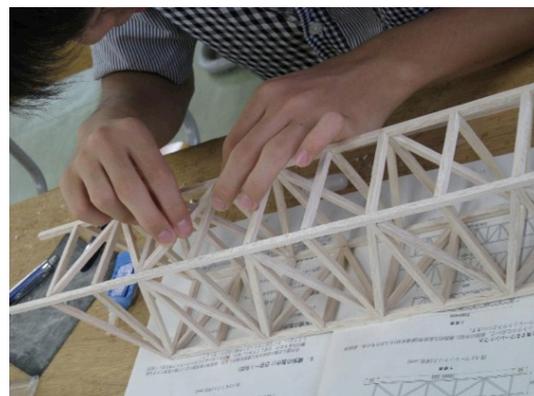


写真 2 製作風景

◆公開講座「ラジオを作ろう！」

計測処理室 永田 玲央

期 間：平成 23 年 8 月 2 日 9:00～15:00

対 象：小学生，中学生

参加人数：11 名

講 師：制御情報工学科 岡 茂八郎，丸木 勇治

技術部 永田 玲央

補助学生 専攻科生 2 名，本科生 5 名

講座内容：最初に，簡単な説明を加えながらパーツの確認を行う．その後，ラジオに必要なアンテナコイルの製作を行う．ラジオは，ゲルマラジオ，トランジスタラジオの順で製作する．ゲルマラジオが完成した時点で，一度放送を試聴する．非常に小さな音でしか聞こえないことを体験してもらい，トランジスタラジオの製作に移る．トランジスタを用いることで，ゲルマラジオに比べて大きな音で放送を聞くことができることを体験する．



写真 1 製作風景



写真 2 ラジオの試聴

◆夏休み子どもサイエンス 2011

情報基盤室 木村 健一

期 間：平成 23 年 8 月 7 日（土）

場 所：大分大学旦野原キャンパス

対 象：3 年生以上の小学生とその保護者

代 表 者：一般科理系 加治 俊夫

補 助：技術部 木村 健一

化学部学生 9 名

実施内容：『手作り線香花火に挑戦！』

◆科学と遊ぼう！in 坂ノ市中学校

情報基盤室 木村 健一

期 間：平成 23 年 9 月 17 日（土）14 時 30 分～15 時 50 分

対 象：坂ノ市中学校生徒

参加人数：生徒 27 名，保護者 12 名

講 師：電気電子工学科 高橋 徹，木本 智幸，辻 繁樹

技術部 高倉 慎，木村 健一

講座内容：『光の不思議』

- ・反射 ポリカーボネイトミラーで反射実験
- ・偏光 偏光板で実験
- ・分光 簡易分光器の制作と実験



写真1 熱心に説明を聞いている中学生

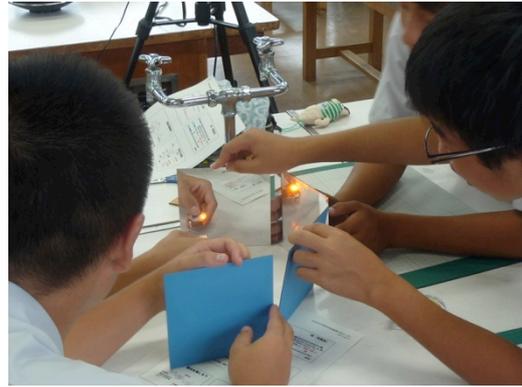


写真2 実験の様子

◆第6回おおいた協働ものづくり展

技術部次長 吉岩 哲也

期 間：平成23年10月8日（土）～10月10日（月）

対 象：市民

参加人数：生徒25名，保護者25名

講 師：都市・環境工学科 一宮 一夫
一般科理系 加治 俊夫
技術部 吉岩 哲也

講座内容：『浮沈子をつくろう』
『ストロー笛を作ろう』



写真1 浮沈子をつくろう



写真2 ストロー笛を作ろう

◆大分市産業活性化プラザ中小企業支援講座

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成23年10月19日～11月4日（合計5回）

対 象：大分市在住及び勤務の者

参加人数：5名

講 師：電気電子工学科 清武 博文
技術部 高倉 慎

講座内容：CPLD/FPGA を使ったデジタル回路入門



写真1 講座風景1

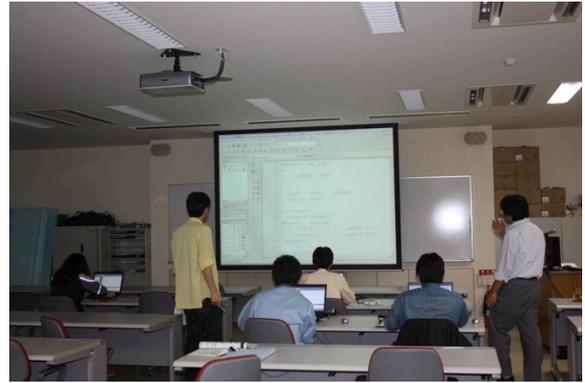


写真2 講座風景2

◆青少年のための科学の祭典大分大会 2011 in 杵築

計測処理室 永田 玲央

期 間：平成23年12月3日～12月4日

場 所：杵築市勤労者体育センター

来場者数：約1500名

出展テーマ：自分にもどる紙飛行機をつくろう

浮沈子をつくろう

人間電池・くだもの電池

プラバンで作るオリジナルアクセサリ

光、電気、音を使った実験

参 加 者：一般科理系 工藤 康紀（大分大会実行委員長）

制御情報工学科 青木 照子， 油田 健太郎

技術部 秦 敏和， 高石 伸一， 岩本 光弘， 高倉 慎，

永田 玲央， 木村 健一， 山本 佳奈

内 容：「青少年のための科学の祭典」（以下、科学の祭典）は、実験や工作といった実体験を通して科学に興味を持ってもらうために開催している。今年、杵築市において2日間の日程で開催された。本校からは、5つのブースを出展し、教職員10名が参加した。今年も、随所で子ども達の笑顔が見られ、来場者数は1500名を超え、大盛況であった。



写真1 プラバンで作るオリジナルアクセサリ



写真2 浮沈子をつくろう

◆科学と遊ぼう！in 臼杵中央公民館

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成23年12月17日

対 象：臼杵市の小・中学生

参加人数：児童生徒30名

講 師：電気電子工学科 高橋 徹， 木本 智幸， 辻 繁樹

技術部 藤本 高德， 高倉 慎

講座内容：『光の不思議』

- ・反射 ポリカーボネイトミラーで反射実験
- ・偏光 偏光板で実験
- ・分光 簡易分光器の制作と実験



写真1 説明を熱心に聞く受講生



写真2 実験による確認

◆科学と遊ぼう！in エイトピア大野

技術部次長 吉岩 哲也

期 間：平成24年1月15日 14：30～16：00

対 象：豊後大野市法人会

参加人数：生徒125名

講 師：都市・環境工学科 一宮 一夫
一般科理系 加治 俊夫
基礎専門 吉澤 宜之
技術部 吉岩 哲也

講座内容：『浮沈子をつくろう』

『戻ってくる飛行物体』

『プラバンで作る自分だけのアクセサリ』

5. 依頼業務

平成 23 年度 業務依頼一覧表

番号	日付	依頼内容	依頼者	担当者
1	4月1日	衛生実験, 環境分析器管理	高見	山本
2	4月4日	入学式放送器点検調整	教育支援	高倉
3	4月5日	水槽補強	一宮	中道, 山本, 永田, 秦, 岩本
4	4月6日	入学式受付 (納付金徴収)	薬師寺	中道
5	4月8日	専攻科パソコン整備	本田	高倉
6	4月11日	専攻科実験補助	山崎	岩本, 高橋, 中道
7	4月11日	アルミ板の加工	工藤宗	岩本
8	4月12日	3DCAD 指導	青木	中道
9	4月12日	専攻科特別研究支援	利光	高倉
10	4月18日	ジグ作成	薬師寺	中道
11	5月2日	3DCAD 指導	青木	中道
12	5月9日	豊の都市学び直し講座	高橋	高倉
13	5月17日	安全教育	軽部	岩本, 古賀, 高橋
14	5月20日	論文作成サポート	青木	山崎
15	6月1日	テオヤンセンロット製作	軽部	高橋
16	6月2日	卓上バイス修理	薬師寺	高橋
17	6月2日	試験監督	辻	木村
18	6月14日	工学実験補助	坂本	岩本
19	6月22日	コレット交換	軽部	岩本
20	7月18日	公開講座準備	青木	山崎, 高石, 永田
21	7月19日	緊急連絡対応システム	清水	衛藤
22	7月20日	公開講座	青木	山崎, 高石, 永田
23	7月22日	金属加工	軽部	高橋
24	7月22日	子供サイエンス	加治	木村
25	7月25日	アクリル板加工	高見	古賀
26	10月4日	活性化プラザ講座	清武	高倉
27	10月4日	DVD 編集	学生支援	吉岩
28	10月24日	工学実験 (代理)	薬師寺	高橋
29	10月26日	高専祭 (実験室管理)	佐藤 (秀)	藤本
30	11月7日	コレット修理	軽部	岩本
31	11月11日	DVD 編集	穴井	衛藤
32	1月11日	工場見学 引率	軽部	高橋
33	2月9日	竜巻発生装置の製作	吉澤	岩本, 高石, 永田, 木村
34	2月16日	試験片製作	薬師寺	高橋

※ 中道は結婚入籍のため, 5月17日付より, 古賀に改姓

6. 大型プロジェクト後の取組

本校では、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて、文部科学省に採択された 2 つの大きなプロジェクトを遂行した。1 つは、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」、もう 1 つは、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代 GP) である。技術部は、この 2 つのプロジェクトに非常に深く関わった。

「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」では、再就職を求める社会人に仕事上基本的な技能を身につけてもらうことを目的に、技術部が主体となって、Microsoft Word 講座、Microsoft Excel 講座、AutoCAD 講座、Solid Works 講座を実施した。技術部は、プロジェクトが終了した平成 22 年度以降も、この経験を活かして一般向けの様々な講座を実施している。特に大きなものとして、大分大学を中心とした大分県内の大学・高専が連携して行っている「とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座」に参加し、一般市民向けの講座を実施している。

「現代 GP」では、「異文化体験型国際技術者総合キャリア教育」として事業を行った。この事業は、「シンガポールポリテクニク校との交流事業」、「海外インターンシップ事業」「タイ王国への足踏みミシン贈呈事業」の 3 つの柱で構成された。技術部は、この中で「タイ王国への足踏みミシン贈呈事業」に深く関わった。文部科学省に採択される以前より、技術部職員と本校学生によって「足踏みミシンボランティア活動」として、使わなくなった足踏みミシンを修理してタイ王国に贈呈してきた。現代 GP の一事業となったことで、足踏みミシンの贈呈だけでなく、ボランティア学生が直接タイ王国を訪問して、足踏みミシンの修理の方法を指導することができた。3 ヶ年の間に、タイ王国だけでなくインドネシア、マレーシアへも足踏みミシンの贈呈と修理指導を行った。平成 22 年度以降も、様々な方面からの援助を受けて、マレーシア、フィリピンへ同様の事業を行うことができた。

ここでは、2 つのプロジェクトが終了した後も継続して行っている取組について報告する。

◆とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座 パソコン講座「パワーポイント講座」

計測処理室 永田 玲央

期 間：平成 23 年 8 月 20 日、8 月 27 日、9 月 3 日 (各日 10:00~15:00)

対 象：一般市民

参加人数: 11 名

講 師：計測処理室 永田 玲央、高石 伸一、山本 佳奈
情報基盤室 衛藤 賢一、木村 健一、古賀 つかさ

報告内容: 本講座では、Microsoft PowerPoint 2010 を使用し、PowerPoint の操作を習得すること、人前でプレゼンテーションをすることを主目的とした。今年は、時間的な余裕を確保するために、日数を 1 日増やした。これにより、受講生全員にプレゼンテーションを行ってもらえることができた。受講生には、PowerPoint の使用は初めてでもパソコンを使用したことがあるという方が多く、基本的な操作の習得が早かった。プレゼンテーションでは、慣れていないこともあり、受講生全員があまり気の進まない様子であった。しかし、実際にプレゼンテーションをしてもらったところ、非常に素晴らしい資料・内容のものばかりで、話し方もとても初めてとは思えないほど堂々としていた。

来年度も引き続き連携講座を実施するので、さらに工夫を加えて内容を充実させたいと考えている。



写真 1 講座の様子



写真 2 受講生による発表

◆足踏みミシンボランティア活動

設計創造室 岩本 光弘

1. 平成 23 年度の足踏みミシンボランティア活動

ミシンボランティア学生：21 名

活動日：毎週木曜日 16：10～19：00

2. 活動内容

実施時期	実施内容
6 月 23 日～6 月 27 日	フィリピン（マニラ）事前調査
7 月 25 日～7 月 30 日	大分県フィリピン友好協会の本部がある教会で事業。JICA 事務所訪問
10 月 22 日	「おおいた国際協力啓発月間 in 2011」 フィリピンでの活動を報告
12 月 3 日	大分高专テクノフォーラムにて活動報告

3. フィリピン共和国 ミシンボランティア事業

期 間：平成 23 年 7 月 25 日～30 日

場 所：フィリピン共和国 マニラ市内の教会(Parokyang Pagkabuhay)

参 加 者：教職員 大城 桂作 校長，田中 孝典 学生主事補

技術部 岩本 光弘，高石 伸一，木村 健一

学 生 6 名

報告内容：大分県フィリピン友好協会が支援しているフィリピン共和国 5 箇所の地域自立支援センターに併せて足踏みミシン 40 台を寄贈した。同センターは、自然災害および貧困による孤児を支援することなどを目的としている。毎年、同協会は大分から古着を送り、それを用いて作製した雑巾等を販売して孤児達の生活費に充てている。現地では、足踏みミシンは高価であり、5 箇所の地域自立支援センターには構造が脆弱な中国製のミシンが 1 台ある。足踏みミシンがあれば、雑巾等の生産量が増えることで販売収入が増え、孤児達に充てる生活費が増加する。現地では、寄贈したミシンを用いてボランティア部の学生が 5 箇所の地域自立支援センターのスタッフに対してミシンの修理およびメンテナンスの技術指導を行った。また、技術指導後、JICA フィリピン事務所を訪問し、活動報告を行うとともに、同事務所の職員からフィリピン共和国の歴史、文化、経済などの講話を頂いた。



写真1 フィリピン市内の教会にて



写真2 フィリピン JICA 事務所にて

7. 研修出張報告

◆日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会

設計創造室 高橋 健一

期 間：平成 23 年 5 月 28 日
 場 所：岡山コンベンションセンター
 対 象：制限なし
 参加人数：約 1000 名
 参加者：機械工学科 軽部 周
 技術部 高橋 健一

報告内容：本講演会は 1988 年の開催から数えて第 23 回となる。ここ数年の講演件数は 1,000 件を越え、国内のロボット工学や制御工学に関する学術研究や教育的取り組みが発表されている。先進的な研究成果の発表ならびに産学官関係者の意見交換の場を提供している。（公式ホームページより抜粋）
 ロボティクス・メカトロニクスに関する研究成果の発表ならびに産学官関係者の意見交換を行った。当日はポスターセッションを行い、「まちなかロボコンの実施とその教育的効果」というタイトルで発表を行った。



図 1. 発表内容

◆コンクリート技士免許更新講習会

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成 23 年 7 月 28 日
 場 所：福岡市
 対 象：コンクリート技士資格所有者
 参加人数：数百名
 参加者：高倉 慎, 秦 敏和
 報告内容：コンクリート技士が数年に一度、受講しなければいけない講習会である。

◆第9回全国高専テクノフォーラム

計測処理室 永田 玲央

期 間：平成23年8月4日 10:00～17:00
場 所：学術総合センター
対 象：（1）国公私立高等専門学校に所属する教職員
（2）産学連携を支援する公的支援機関，企業関係者
（3）その他産学連携を支援する一般市民

参加人数：300名

参加者：永田 玲央

報告内容：本フォーラムは，基調講演，パネル討論，研究成果のポスター展示・説明で構成されていた。本フォーラムにおいて，「高性能鉄筋コンクリートひび割れ深さ測定装置」というタイトルで，本校制御情報工学科 嶋田浩和教授との共同研究に関するポスター展示を行った。その他，本校からは2名の教員によるポスター展示が行われた。会場には，さまざまな分野・内容のポスターが展示されており，各所で活発な意見交換が行われていた。本フォーラムに参加することが，高専における産学官連携のあり方について考えるよい機会となった。



写真1 会場の様子



写真2 活発な意見交換

◆平成23年度 国立高等専門学校機構 IT 担当研修会出張報告

情報基盤室 衛藤 賢一

期 間：平成23年8月18日（木）～8月19日（金）
場 所：東京・大塚商会 α ラーニングセンター水道橋
対 象：情報システム担当技術職員

参加人数：57名

参加者：衛藤 賢一

報告内容：現在，高専の教育研究及び業務環境において，情報システム及び情報ネットワーク（以下「情報システム等」という）との関係性が非常に強く，これら情報システム等は学校運営には必要不可欠という状況であることから各校の情報システム等の運営に携わる者を対象とした研修会が開催された。

- （1）情報セキュリティの一般知識習得
- （2）事例紹介（3件）及び事例に基づいたディスカッション
 - 津山高専の教育用電子計算機システムの更新について（津山高専）
 - Macintoshを端末とした教育用計算機システムの導入とその運用（石川高専）
 - iPadを用いたペーパーレス会議システムの構築（北九州高専）
- （3）仮想化技術の基礎知識習得（講義及び実習）

◆九州沖縄地区国立高等専門学校技術職員研修（機械系）

情報基盤室 古賀 つかさ

期 間：平成 23 年 8 月 31 日～9 月 2 日
 場 所：熊本高等専門学校八代キャンパス
 対 象：機械系の業務に携わる技術職員（技術専門職員も含む）
 参加人数：17 名
 参 加 者：古賀 つかさ

報告内容：九州沖縄地区のみならず、舞鶴や米子高专からも機械系技術職員が 17 名集まり研修会が催された。スケジュールを表 1 に示す。

技術課題発表会では「ミシンボランティア活動」について発表し、大分高专の意欲あふれる学生を評価してもらうことができた。（写真 1）

二日目に行われた全体討論会では、「ロボコン支援」「技術専門職員の人数」「部屋の割り当て」について話し合われた。各高专の技術職員が抱えている問題を共有し、活発な意見交換ができ大変有意義な討論会であった。

表 1 スケジュール

8 月 31 日	9 月 1 日		9 月 2 日
校長講義	特別講義		講義
技術課題発表会	全体討議高专の諸問題について		学校見学
懇親会	企業見学	<ul style="list-style-type: none"> ・チッソ興産(株)水俣工場 ・水俣病資料館 	閉講式



写真 1 研究発表会の様子



写真 2 チッソ興産(株)水俣工場見学

◆次期校内 LAN 共同調達 仕様策定委員会出張報告

情報基盤室 衛藤 賢一

期 間：第 1 回 平成 23 年 10 月 26 日～10 月 27 日
 第 2 回 平成 24 年 1 月 16 日～ 1 月 17 日
 場 所：第 1 回 佐世保高专
 第 2 回 有明高专
 対 象：校内 LAN 共同調達仕様策定委員
 参加人数：約 20 名
 参 加 者：制御情報工学科 鶴沢 偉伸（総合情報センター長）
 技術部 衛藤 賢一

報告内容：次期校内 LAN は九州の 6 キャンパス（有明高专，大分高专，鹿児島高专，熊本高专熊本 C・八代 C，佐世保高专）による共同調達となったため（平成 25 年 3 月導入予定），本共同調達の仕様策定委員会に本校から鶴沢センター長と衛藤が出席しネットワーク機器の入札仕様書策定を行っている。（入札仕様書の確定は 5 月頃の予定）

◆コンクリート技士試験受験報告

計測処理室 山本 佳奈

期 間：平成 23 年 11 月 27 日 13：30～16：00

場 所：西南学院大学

参 加 者：永田 玲央, 山本 佳奈

報告内容：公益社団法人 日本コンクリート工学会による平成 23 年度コンクリート技士試験を福岡県の西南学院大学にて受験した。コンクリート技士はコンクリートの製造、施工、検査および管理など、日常の技術的業務を実施する能力のある技術者とされ、コンクリートに対する信頼性を高め、建設産業の進歩・発展に寄与することを目的として、昭和 45 年度に創設された資格である。

試験内容は四肢択一問題と○×問題の筆記試験で、コンクリート標準示方書の内容、材料の品質試験及び管理、配合設計、コンクリート試験、プラントの計画管理、コンクリートの製造および品質管理、施工、関係法令などの項目に分けられている。12 月 23 日に日本コンクリート工学会のサイト上で合格発表があり、山本が合格、来年度からコンクリート技士として登録されることとなった。23 年度の実験者は 10,686 名、合格率は全国平均で 30.5%だった。

◆平成 23 年度 高専サイエンス支援ネット in 九州沖縄 科学技術教育支援・研修会

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成 23 年 12 月 26 日

場 所：東洋ホテル会議場（福岡市）

対 象：全国の高専で小中学校の科学技術教育支援を担当される方およびその関係者

参加人数：34 名

参 加 者：一般科理系 工藤 康紀

基礎専門 吉澤 宣之

技術部 高倉 慎

報告内容：講演

- ① 地域と連携して和歌山高専が取り組む「きのくにもものづくり人材育成支援ネットワーク」
講師：山口 利幸氏(和歌山高専)
- ② 地域と連携した科学体験事業の実施 「神話の国シマネの縁結び(ENMSB) ネットワーク」
講師：箕田 充志氏(松江高専)

討議

「高専サイエンス支援ネット in 九州沖縄」および科学技術教育支援今後の課題と可能性

◆平成 23 年度 国立高等専門学校機構 ネットワーク管理者研修会

情報基盤室 衛藤 賢一

期 間：平成 23 年 12 月 26 日～12 月 27 日

場 所：東京・代々木オリンピックセンター

対 象：ネットワーク担当教職員

参加人数：166 名

参 加 者：制御情報工学科 鶴沢 偉伸（総合情報センター長）

技術部 衛藤 賢一, 木村 健一

報告内容：情報ネットワークシステム管理業務の適切かつ効率的な運用を推進するために、情報共有と必要な技術的知識の習得を目的として開催され、本校からは鶴沢総合情報センター長、衛藤、木村が出席した。

- (1) 一括調達物品「認証基盤システム」に関する研修
- (2) 一括調達物品「ファイアウォールシステム」に関する研修
- (3) 「IPv6」に関する研修
- (4) 「無線 LAN」に関する研修
- (5) 事例紹介

情報セキュリティポリシーに合わせた運用改善とそれに伴う校内 LAN 設備更新プロジェクト
(鈴鹿高専)

◆九州地区総合技術研究会(九州地区大学・高専技術職員代表者連絡会議)報告

技術次長 吉岩 哲也

期 間：平成 23 年 2 月 29 日～3 月 1 日

場 所：鹿児島大学郡元キャンパス

参 加 者：吉岩 哲也

報告内容：今回の九州地区大学・高専技術職員代表者連絡会議では、「九州地区大学等技術研究協議会規則(案)」
についての説明と承認が行われた。



写真 1 鹿児島市市電軌道敷緑化整備事業 (全国初)



写真 2 代表者連絡会議会場

◆第 3 回高専技術教育発表会 in 木更津

計測処理室 山本 佳奈

期 間：平成 24 年 3 月 5 日～6 日

場 所：木更津工業高等専門学校

対 象：高等専門学校 教職員

参 加 者：山本 佳奈

報告内容：本発表会は今年度で 3 回目となる。技術教育（実験実習の工夫・改善・提案・実例，体験入学や公開講座の取組み），技術教育研究・補助金採択研究と地域貢献・技術職員啓発について 2 会場で行われた。

実験実習の工夫についての発表も多く，大変参考になった。また，1 日目には五十嵐 一男高専機構理事から「高専機構の産学官連携活動の実情について」と題して特別講演があった。発表会終了後は校内見学もあり，普段見ることの少ない他高専の実習工場や実験室を見学することが出来，非常に有意義な 2 日間を過ごせた。



写真 1 木更津高専



写真 2 校内見学の様子

◆第7回情報技術研究会

情報基盤室 木村 健一

期 間：3月6日～7日

場 所：九州工業大学情報工学部 飯塚キャンパス

対 象：大学，高等専門学校，研究機関等の技術職員

参加人数：72名

参 加 者：高石 伸一，木村 健一

日 程：3月6日 13：00～17：45

開会式，技術発表，演習説明，意見交換，写真撮影，技術交流会

3月7日 9：00～16：30

技術発表，意見交換，閉会式，演習・実習



写真1 九州工業大学



写真2 技術発表会の様子

8. 資料

◆大分工業高等専門学校技術部規程

制 定 平成16年 4月 1日

最終改正 平成20年11月12日

(趣旨)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年4月1日制定）第12条第9項及び大分工業高等専門学校組織運営規則（平成20年3月14日制定）第10条の規定に基づき、技術部の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 技術部においては、次の各号に掲げる業務を遂行する。

- 一 学生の実験、実習及び卒業研究の技術的指導に関すること。
- 二 教員の教育研究活動の支援に関すること。
- 三 外部からの技術相談に関すること。
- 四 学生の課外活動の技術的指導に関すること。
- 五 技術部に関係する機器の保守・管理に関すること。
- 六 新技術の開発に関すること。
- 七 その他技術部に関すること。

(組織等)

第3条 技術部に当該業務を遂行するため、技術長、技術次長、室長及び技術部員を置く。

- 2 技術部長は、専任の教員をもって充て校長が任命する。
- 3 技術部長は、技術部の業務を掌理する。
- 4 技術長、技術次長及び室長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 5 技術長は、技術部員を統括し当該業務を遂行すると共に、技術部員に対し技術的な指導及び育成に当たる。
- 6 技術次長は、技術長を補佐する。
- 7 室長は、上司の命を受け、当該部門の業務を遂行すると共に、同室に所属する職員に対し技術的な指導及び育成に当たる。
- 8 技術部員は、技術職員（施設系は除く。）をもって充て、技術部の業務に従事する。

(業務分掌)

第4条 技術部にその所掌を分掌させるため、設計創造室、解析構造室、情報基盤室及び計測処理室の4室置き業務を遂行する。

(技術部運営委員会)

第5条 技術部の管理及び運営に関する必要事項を審議するため、技術部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年11月12日から施行し、平成20年11月 1日から適用する。

◆大分工業高等専門学校技術部運用内規

制 定 平成16年 4月 1日
改 正 平成20年11月12日

(目的)

第1条 この内規は、大分工業高等専門学校技術部規程第2条に規定する業務を円滑に行うため必要事項を定める。

(業務の依頼)

第2条 大分工業高等専門学校技術部に業務を依頼する際の手続は、以下のとおりとし、別紙様式により行う。

- 一 前期又は後期若しくは前期及び後期を通しての学生の実験・実習については、学科等の単位でまとめ主任等名で所定の時期に技術部長に依頼する。
- 二 教員の教育研究活動の支援及び卒業研究指導については、別途前号の規定により依頼する。ただし、期間は、年度を越えない。
- 三 学生の課外活動の技術的指導については、クラブ顧問から技術部長に依頼する。
- 四 その他、不定期の業務については、担当者から技術部長に依頼する。

(業務の決定)

第3条 技術部の業務は、技術部運営委員会（以下「運営委員会」という。）で決定する。ただし、軽易なもの、緊急を要するものについては、技術部長が決定することができる。技術部長は、その際決定した業務を運営委員会に報告しなければならない。

(業務の遂行)

第4条 業務の遂行に当たっては、チームを編成することができる。その際のチームは、4室の中から当該業務の遂行に必要な技術職員で編集する。

- 2 技術部員は、担当する業務を遂行する際には、担当教員と調整する。
- 3 技術部員は、担当する業務を遂行すると共に、技術の向上を図るため自己研鑽に努める。

(連絡調整)

第5条 学科等との連絡調整を円滑かつ的確に行うため、技術次長及び室長の中から必要に応じ学科等毎の連絡責任者を置く。

- 2 技術部内の連絡調整は、設計創造室において行う。

(技術部員の研修)

第6条 技術部長は、技術部員の資質の向上を図るため、研修会を計画し又は他機関で開催される研修会に参加させるよう努めなければならない。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年11月12日から施行し、平成20年11月1日から適用する。

◆第1回技術部運営委員会議事概要

平成23年5月26日(木) 16:10～ 会議室

出席者：一宮技術部長，工藤(康)委員，山田委員，牧野委員，亀野委員，佐藤(秀)委員，薬師寺委員，青木委員，藤本技術長，吉岩次長，岩本設計創造室長(記録)

議題 議長：一宮技術部長

1. 平成22年度技術部業務報告について(資料1)

藤本技術長から，平成22年度技術部業務について，技術職員実績の報告があり，原案が承認された。

2. 平成22年度技術部運営費使途報告について(資料2)

吉岩次長から，平成22年度技術部運営費使途について報告があり，原案が承認された。なお，予算超過分〇〇〇円は財務で調整済みである旨の説明があった。

3. 平成23年度研究支援担当者について(資料3)

藤本技術長から，各学科より依頼のあった「平成23年度教員研究および卒業研究支援業務」の担当者が決定した旨の報告があった。なお，年度途中での業務依頼についても可能な限り対応できることが確認された。

4. 3DCAD認定試験について(資料4)

藤本技術長から，平成23年度の3DCAD認定試験について，本年度も本校を試験会場として受け入れる旨の報告があり，原案が承認された。なお，本年度は，「ロボット創作室」を使用することになった。

5. その他

なし

報告

1. 平成23年度予算要求についての報告(資料5)

吉岩次長から，平成23年度予算要求について報告があった。

2. コンクリート受託試験についての報告(資料6)

吉岩次長から，平成23年度コンクリート受託試験についての報告があった。委員から，本年度はJQA検定を実施する必要がないため，その分を校内予算要求分に回せないかとの意見があった。

3. ミシン活動について(資料7)

岩本委員から，平成23年度足踏みミシンボランティア活動について説明があった。6月に事前調査を行い，7月下旬に足踏みミシン修理・贈呈事業をフィリピンにて行う予定である。

4. 大分大学等連携講座について(資料8)

藤本技術長から，大分地域大学等連携講座について，永田技術職員を中心に本年度も本校で講座を実施する予定である旨の説明があった。

5. その他

1) 科学の祭典について

工藤委員から，平成23年度の科学の祭典は11月に杵築市で開催予定であり，引き続き技術職員の対応をお願いしたい旨の説明があった。

2) 科学と遊ぼうについて

藤本技術長から，「科学と遊ぼう」について，現在2件の応募がある旨の報告があった。

3) ロボコン活動について

藤本技術長から，平成23年度のロボコン活動について，全面的に協力したいとの説明があった。

◆第2回技術部運営委員会議事概要

平成24年2月29日(木) 16:00～ 小会議室

出席者：一宮技術部長，山田委員，牧野委員，佐藤(秀)委員，青木委員，亀野委員(議長委任)，
藤本技術長，吉岩次長(議長委任)，岩本設計創造室長(記録)

欠席者：工藤(康)委員，薬師寺委員

議題

1. 平成24年度以降の技術部組織について(資料1)
 - 1) 技術長について(一宮技術部長)

藤本技術長の退職に伴い，次期技術長選出について，技術長選考委員会(校長，技術部長，事務部長)における検討結果の説明があった。
 - 2) 技術次長の配置について(藤本技術長)

平成24年度以降の技術部組織改編に伴い，技術次長を2名体制とする提案があり，了承された。
 - 3) 解析構造室長，情報基盤室長，計測処理室長の配置について(藤本技術長)

高倉慎解析構造室員を解析構造室長に，永田玲央計測処理室員を計測処理室長に昇任させたいとの提案があった。これに伴い，高石伸一計測処理室長を情報基盤室長に配置換えする旨の提案があり，了承された。
2. その他
なし

報告

1. 足踏みミシン修理活動状況報告(岩本設計創造室長)(資料2)

足踏みミシン活動についての報告があった。委員からは，学生主事室にも報告した方がよいのではとの意見があった。また，学生に対しても特活などの時間を利用して，ミシン活動のPRをしたらよいのではとの意見があった。
2. コンクリート受託試験状況報告(藤本技術長)(資料3)

平成23年度(2月末現在)コンクリート受託試験の進捗状況報告があった。
3. 科学と遊ぼう，科学の祭典等，学外事業活動状況報告(藤本技術長)(資料4)

本年度技術職員が携わった学外事業活動の報告があった。
4. 企業技術者活用プログラムについて(藤本技術長)

企業技術者活用プログラムが本年度で終了するのに伴い，機械工学科実験実習対応技術職員の持ち時間が変わる旨の報告があった。
5. 平成24年度技術職員再雇用について(藤本技術長)

平成24年度の技術職員の再雇用について，秦技術職員はフルタイム，藤本技術職員は短時間勤務での再雇用である旨の報告があった。
6. 平成24年度以降の電気系技術職員の採用について(藤本技術長)

今年度限りで定年退職する藤本技術長の後任として，技術職員を公募したが採用に至らなかった為，今後も引き続き採用手続きを進める旨の報告があった。
7. 技術職員担当割り振りについて(藤本技術長)(資料5)

平成24年度の各学科の実験実習に対する，技術職員の担当割り振りの説明があった。
8. その他(藤本技術長)

古賀技術職員が，平成24年3月2日から平成25年3月31日まで，産前，産後，及び育児休暇を取得する為，本校技術部OBの藤井定氏を代替要員として雇用予定である旨の報告があった。

◆技術職員が取得している資格・免許・国家試験合格者など

技術職員は様々な資格を所有しそれを実験、実習、公開講座、外部委託事業等の場において生かしている。

技術部職員が取得する免許・資格・試験名など 平成 24 年 3 月 31 日現在

免許・資格・試験名など	取得数	免許・資格・試験名など	取得数
(国家公務員採用試験など) ・国家公務員採用試験（初級） ・国家公務員採用試験（Ⅱ種） ・国立大学法人等職員採用試験	3 3 1	(電気・電子分野) ・第二種電気工事士 ・特殊無線技士（無線電話乙）	2 1
(学位) ・修士 ・学士 ・準学士	1 3 3	(情報分野) ・基本情報技術者試験 ・CAD 利用技術者 2 級 ・3 次元 CAD 利用技術者 2 級 ・ソフトウェア開発技術者 ・Microsoft Office Specialist Word 2003 ・Microsoft Office Specialist Excel 2003 ・CSWA, Certified SolidWorks Associate ・3 次元 CAD 利用技術者準 1 級	2 6 7 2 7 9 1 1
(機械分野) ・ガス溶接作業主任者 ・ガス溶接技能講習修了証 ・アーク溶接作業特別教育修了証 ・2 級ボイラ技士免許 ・2 級技能検定（普通旋盤） ・研削砥石作業特別教育修了証 ・訓練指導員免許 機械科 ・訓練指導員免許 メカトロニクス科	1 3 1 2 1 2 1 1	(その他) ・危険物取扱者 乙種 第 4 類 ・クレーン運転士 ・玉掛技能講習 ・大型運転免許 ・アマチュア無線技士 ・小型移動式クレーン	1 1 1 1 5 1
(都市システム分野) ・コンクリート技士 ・測量士補 ・川砂利採取主任業務管理者	3 1 1		

技術部業務報告書作成にあたっての取り決め事項（平成 20 年 3 月）

1. 目的 技術部の年間の活動事跡を記すことにより、当該年度の総括と次年度の業務遂行に反映させることを目的とする。
2. 名称 技術部業務報告書編集委員会とする。
3. 委員 編集委員は技術部員で構成し、編集委員長は技術長が委嘱する。
編集委員は技術部会議で選出する。委員は委員長と技術長を含め 5 名以内とし、任期は 1 年とする。
4. 役務 編集委員長は年間の編集計画を立案提示し、編集全体の取りまとめを行う。
編集委員は、編集委員長の要請を受け、報告書作成までの業務を行う。
5. 経費 主たる経費（印刷用紙、ファイル、印刷代）は技術部予算から充当する。
6. 発行 3 月中旬までに原稿を集約し、次年度当初に発行する。原則、学内配布とする。
技術部のホームページに UP する。
7. その他 報告書の発行に関して変更がある場合は、当該年度の編集委員会で決定し、技術部員に周知する。

平成 23 年度 技術部報告書

平成 24 年 3 月 31 日

編集委員長

永田 玲央 (計測処理室)

編集委員

山崎 勝翁 (解析構造室)

岩本 光弘 (設計創造室)

古賀 つかさ (情報基盤室)

藤本 高德 (技術長)

大分工業高等専門学校 技術部

〒870-0152 大分市大字牧 1666 番地